

会議所企画の視察旅行

大企業の柔軟性に驚いた

バスに、お笑いに、先人の志に



去る、9月20日、21日会議所企画の「大阪視察旅行」に参加しました。

行先は、なんば花月と、パナソニックミュージアムです。

新潟空港を出発し、大阪空港を往復する旅です。

今回の旅で得たものは、「大企業の柔軟性」です。

(その1) 高速リムジンバスの運行の柔軟性

大阪空港に到着、総勢26名のなんばまでの移動手段は、空港リムジンバス。

定刻(10時30分なんば行き)リムジンバスには、視察団全員が乗ることはできません。

「分断しての乗車？ 次の便を待つ？」とっていました。

その時、バス乗車場の整備員から、思わぬ言葉が…。

「通常20分間隔の運行ですが、臨時便を10分後に出すように手配をします。」

本当に、7分後に臨時便バスが到着、10分後に出発できました。

バス会社の経験からの柔軟性ある対応に、感激したものでした。

(バス関連の別な話) 新潟空港バス停では「ピーチ渋滞」に遭遇します。

関空から新潟便(概ね13時着)の乗客半分が、バス乗り場に並びます。

乗り込むのは、路線バス(10分発)と、駅直行リムジンバス(30分発)です。

この状態に柔軟性(二列に分け、待つ表示)があればと思うことがあります。

路線バスを利用する理由のある人(駅まで行かない人)が、行列にあきらめて

タクシー乗り場に向かわれます。なお、乗り場の「個人タクシー」が目立ちました。

(高速バススカット話)以前、高田行高速バスが、満員で三越前に到着。高田行きの

乗客数名が乗れません。その時運転手が、「鳥原で降車の方はいませんか。高田へ

行く方が乗れません。降りて次のバスの乗車にご協力ください。」これに数名の乗客が

神対応。降りた乗客は、このバス停の先頭に並ぶよう配慮の運転手に敬服しました。

(その2) 吉本興業田中副社長の会社説明にみる、吉本興行の柔軟性

なんば花月での公演は、寄席と観劇の2本立て。定価4,700円ながら、55歳以上は3,500円のキャンペーン中(要年齢確認)でした。

落語、漫才、劇ともテレビで見るより、生で見たほうが数倍も面白いことを再確認。この劇場(千人収容)は、連日満員のようです。

副社長の会社説明では、「わろてんか」はあくまで題材提供、実際の社歴はもっと苦労があったと説明くださいました。「わろてんか」は、大阪一の劇場主までの話。近年吉本興業は、「耐震性に注意しながら、劇場を全国展開しています。」

昨今の「インバウンドブーム」。従来の日本人相手の劇場観客には、対策も必要。そこで今手掛けているのは、「**ナンバーバル劇場**」とのこと。

ナンバーバルとは、非言語の意味。言葉でなく情報を伝達する。

パントマイムなど言葉がなくても通じる演芸。

是非「ナンバーバル劇場」が完成したら、見に行きたいですね。

(その3) パナソニックミュージアムは、万博のパビリオンみたい。松下の柔軟性は？

松下幸之助の経営理念誕生から100年を迎え、新ミュージアムを3月にオープン。100年史のなかで、過去の困難期の克服策などが、松下語録とともに紹介されております。また、「ものづくりイズム館」も好条件にて見学しました。

(過去の製品のうち400点を特別公開(通常は一般公開)との好待遇にも感激。)

上記の施設以外に、社員が自由に知恵を出し合える施設も見学。

(**社内版の異業種交流会**をイメージしてください。)上司の許可があれば、就業中でもこの施設で、普段の仕事と異なる製品の作成を行なえます。

ここでの完成品は、「ラボ」という名前で販売中とのこと。パナソニックと名乗れないのは、大企業名を付ける条件が大変厳しいためとのこと。

万代つばさグループ代表
発行者 八百板 誠

(税理士法人 万代つばさ 代表社員税理士)
(八百板誠行政書士事務所)

事務所 : 新潟市中央区下大川前通7ノ町2230番地 (8階建の1階奥です)

025(228)4697

編集者より 記事は独自の調査分析により書き上げております。

明示、黙示にかかわらず、発行者(当事務所)がこれを保証するものではありません。